

生成 AI を活用した家庭分野の授業づくり

～家庭分野における資質・能力の育成を目指して～

指導主事が考える「生成AIを活用した授業づくりのポイントと留意点」



もっと教えて 生成A I

令和7年10月(第2版)
徳島県教育委員会

「チャットGPT」などの生成A Iについて、知っているかな？
文部科学省が出した、使い方についてのガイドライン（めやす）を
説明するのでルールを守って正しく使ってね！



Q1 生成A Iって、何ですか？

生成A Iは、パソコンで質問を入力すると、事前に学習したデータをもとに

「もっとも可能性が高い言葉」を選んで回答します。間違えることもよくあります。



Q2 どのようなことに使うことができますか？

すでに答えのある問題であれば、インターネット検索でもできますね。生成A Iは、

まだ答えのない問題について、解決方法を考えていくときの相談相手になってくれます。

Q3 生成A Iは、小学生でも使えますか？

いま使われている多くの生成A Iには、13歳以上などのルールがあります。

でも、小学生でも使えるものもあります。

そのときは、先生やお家の人と一緒に使うことが大切です。

使う時は、大人と
一緒に使おうね！



利用規約（ルール）は変わることがある
ので、最新の情報を確認してください。

Q4 どうして大人と同じように使うことができないのですか？

生成A Iを使うには、仕組みやルールをしっかりと勉強する必要があります。

小学生は、生成A Iのできることやできないことを知り、将来使うための力をつけることが大切です。

Q5 生成A Iを使うためには、どのような力が必要ですか？

生成A Iは正しく使えば危ないものではありません。将来、「新しい技術をうまく使いこす力」

は大切になってきます。小学生のみなさんは、次のことに気をつけ、力をつけていきましょう。



Q6 もっと知りたいときはどうすればいいですか？

「知りたい」、「調べたい」という「学びに向かう力」が、

人間がA Iに勝てる場所だね！ A Iって何だろう？

図書館やインターネットを使って調べてみよう！



徳島県情報モラル教育サポートサイト

文部科学省のガイドラインを掲載しています。



小中学生のための Gemini パスポート

子どもたちが学びに使うプロンプト ライブラリ

対象学年: 小学校 4 年生～中学校 3 年生

2025 年 8 月

初等中等教育段階における 生成 AI の利活用に関するガイドライン

文部科学省 初等中等教育局

令和 6 年 12 月 26 日

Ver. 2.0

これらの資料の
データは

GoogleClassroom

現在のClassから
ダウンロード可能

教育現場を支えるAI活用ガイド：授業準備から評価まで

教員がAIを「パートナー」として活用し、業務効率化と生徒の学びの深化を両立する方法



授業準備：教材作成の効率化



指導案と導入 アイデアの作成

単元に合わせた興味を惹く導入案をAIが即座に提案します。



習熟度別の 読解・問題作成

1つの題材から英検各級レベルに合わせた教材を瞬時に書き分けます。



小テスト・クイズ の自動生成

解説付きの4択クイズを作成し、学習アプリへスムーズに連携できます。



授業と評価：学びの深化と分析



対話による 思考の「壁打ち」

AIが反対派や相談相手となり、生徒の論理的思考やアイデアを深めます。



個別学習を支える「副担任」

生徒が自分のペースで質問でき、教員の手が回らない部分を補完します。



評価基準の作成と 傾向分析

ルーブリック作成や振り返りシートの要約により、次の一手を可視化します。

人間中心の生成 A I の活用

A I の提案を受けて、より考えることが求められる

「本当にそうなのかな」

「自分の生活は、どうなんだろう」

【さらに考える】

生成 A I をうまく使いながら、学びにつなげる

人間が「考える力」を大切に

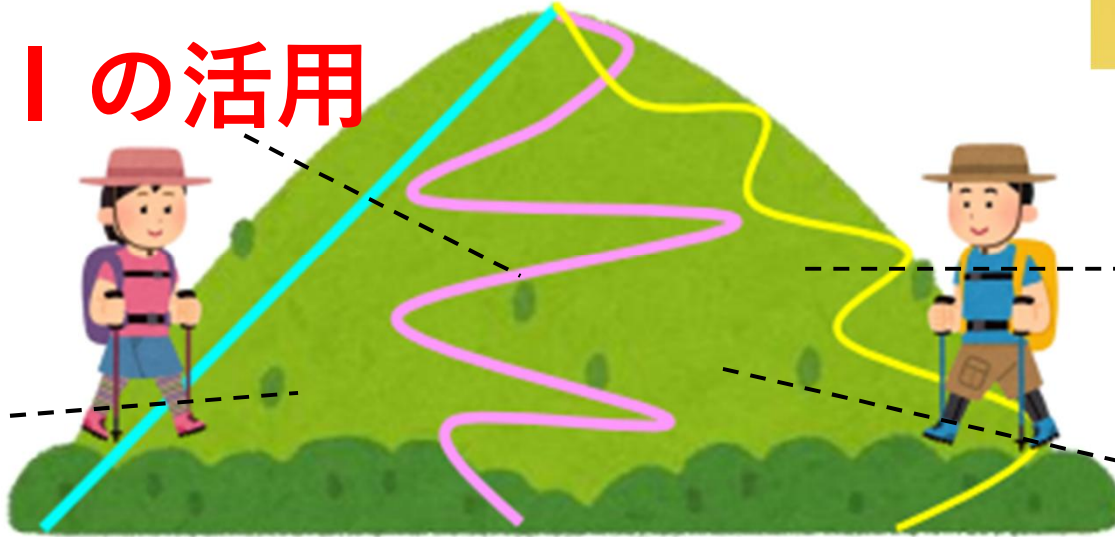
登頂＝資質・能力の育成＝



の目標や内容の実現

生成 A I の活用

問題解決的
な学習



個別最適な学び 協働的な学び

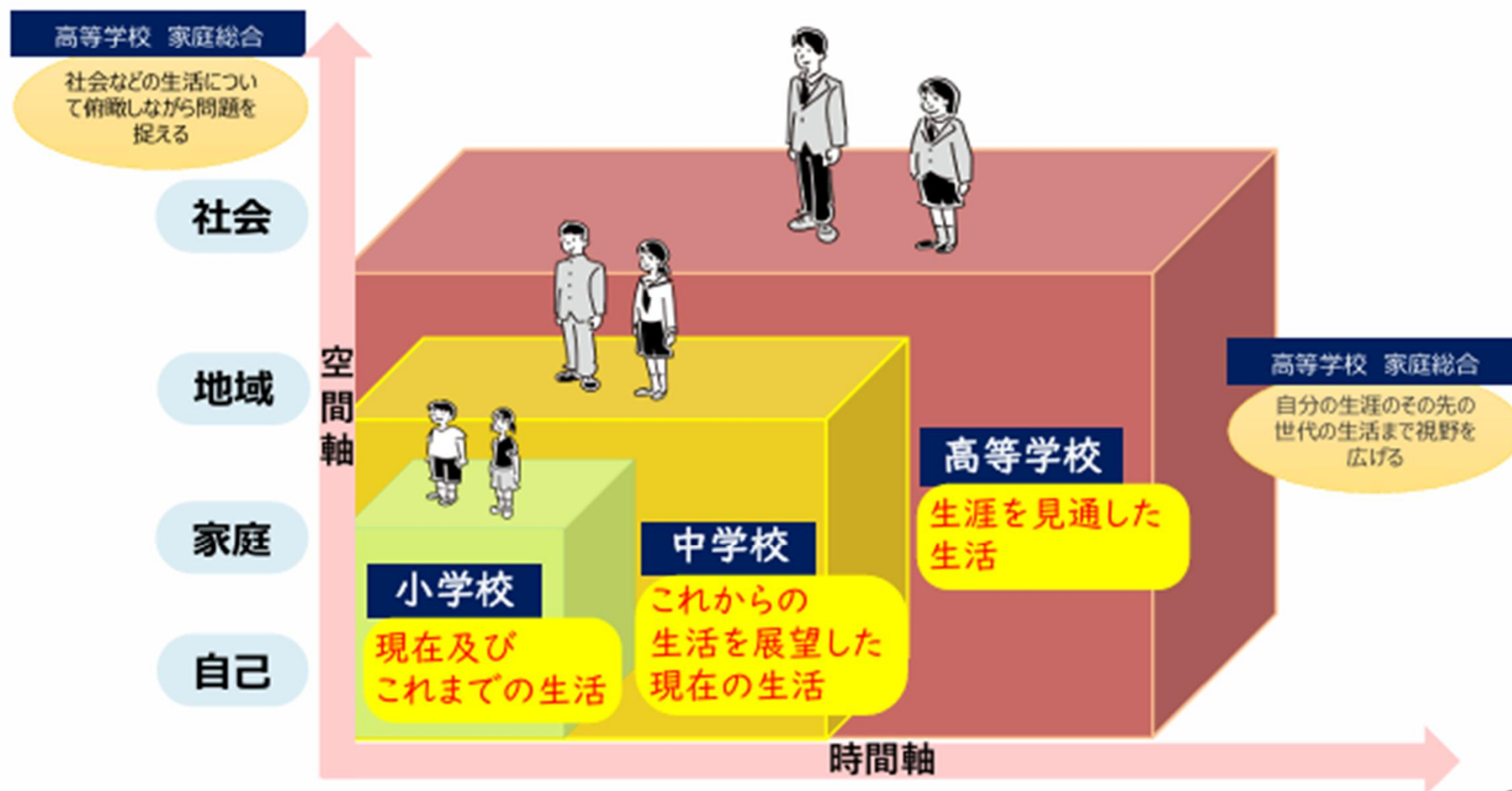
調理・製作など
実践的・体験的な学習
を通して

目指す山＝学習指導要領の目標や内容

- 児童生徒の実態に応じて登山ルートを決める
- 登山ルートは「題材や内容ごと」に考える
- 登山ルートを考えることは「授業改善」につながる

各学校段階における家庭科の学習と空間軸・時間軸の関係

- 小・中・高等学校における目標や内容等について、改めて系統的・体系的に整理する際、児童生徒の発達段階に応じ、学習対象を空間的・時間的に拡大させていく観点等にも配慮する。



学習指導要領解説 四角囲みをプロンプトへ

P.86



(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的な特質について理解すること。

(イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。

イ 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。

(内容の取扱い)

ウ (2)のアの(ア)については、水の働きや食物繊維についても触れること。

なぜ、調理計画の改善に「生成AI」を活用するのか

【従来】教師一人での見取りの限界



- ・ 生徒全員(100名以上)の調理計画を確認するのは困難
- ・ フィードバックが授業後になりがち

【AI活用】個別最適な学習空間の創出



- ・ 全員に「個別専属の調理計画アドバイザー」がつく
- ・ 即時的フィードバック (付箋) により、その場で思考を深める
- ・ 答えではなく「問い」を返し、自己調整力を育成

生成AI 「Gem」 の活用例

調

調理計画アドバイザー

自分で考えた調理計画について、改善点のヒントをもらおう

+ | Gemini に相談

Flash





Gem（調理計画アドバイザー）

投稿日: 15:49



町営計画の改善のヒントを得るために使います。

Google Gemini

<https://gemini.google.com/gem/139>



資料を表示

Gemを実際に使ってみましょう

答えではなく「改善のヒント」を見る

- ①GoogleClassroomからGemを開く
- ②調理計画を入力する
- ③改善のヒントを確認する
- ④自分の調理計画を見直す

改善の視点についての指示①：調理の効率性

中学生が1人で1食分を調理する場合を想定し、
最適なワークフローを提案させる。



同時進行の提案

「煮物を加熱している間に、
汁物の具材を切る」といった
並行作業を可視化し、時間を
有効活用する。



手順の最適化

洗い物を減らす順番や、
加熱器具を効率よく使う
動線を提案し、調理のス
トレスを軽減する。



1人調理への適応

限られた調理スペースと
器具で、無駄なく仕上げ
る方法を考える。

改善の視点についての指示②：科学的根拠

「なぜ」を理解した上での調理の仕方

手順の暗記ではなく、
科学的な裏付けに基づいたアドバイスをさせる。

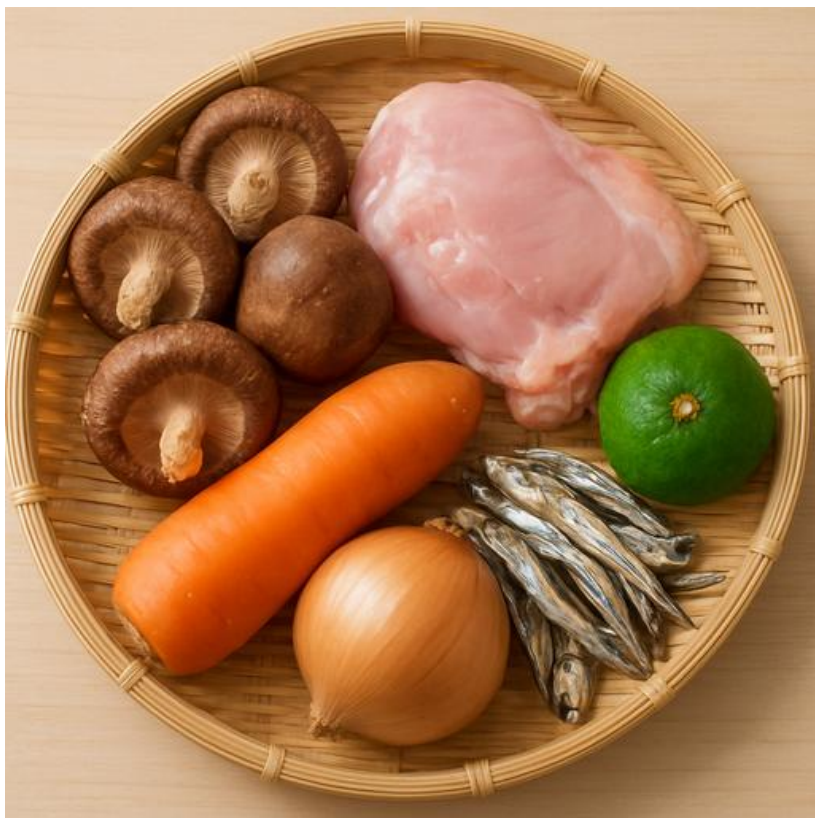
- だしの取り方：なぜ、昆布は沸騰直前に取り出すのだろうか。
- たんぱく質の変化：なぜ、鶏肉は最初に入れるのだろうか。
- 調味の順序：なぜ、この順に調味料を入れるのだろうか。



改善の視点についての指示③： 地域の食材を用いた和食の調理

「ふしめん汁」と地産地消

- ✔ 徳島県の伝統的な味、地域の食への理解
- ✔ 混合だし等、料理に適しただしの取り方
- ✔ 地域又は季節の食材のよさ
- ✔ 食文化を伝える役割



AIとの対話が支える個別最適な学び

壁打ち相手としての生成AIの活用

授業者の先生が、一人一人に助言するのではなく、
AIがヒントを提供し、学びをサポートする。

AIは答えを与える存在ではなく、
生徒の「思考」を引き出し、
教師の「時間」を捻出する。